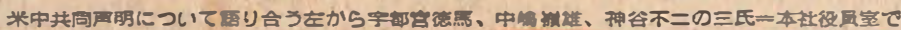


日本の外交はどう進めるべきか



のウサギと三匹、三匹もつかまへようとしてゐる。実に今シのいい考え方だが、すべてがそんなにスムーズに行くかどうか。何らかのゆれもどじょうつかブリクシオン(まどろ)が生ますやうな気がする。

宇都宮　わたしのいいにじごとは国交回復の問題についてだ。米

国が「台湾を中国の一部」と認めなごはく、当り前のことで、それによつてソ連を捨て、日本を捨てるというごとはない。

が奮意を思ひたいが、現実にはむずかしい。ソ連は米中首脳会談を見て、すでにワリシマンを起こしている。

宇都宮 ソ連は中国と国交があるし、大使もお互いに置いていゝる。仲良くて苦ないはずがない。

ね、台湾問題にしても、もちろん、米国のタレス國務長官の強制によるものだ。米国のシッポにぶらさがって行けるだけで、かんじんな時に先を見越して足踏みし、方向を転換するところではなかった。

日中開戦、日中関係には本質的な相違がある。太平洋戦争では米国は中国の同盟国だったが、日本は中国の敵国だった。その意味で日中関係は戦争のあと始末が必要であり、平和条約というハードル

の新展開は、多角外交へのアツ
ローチとして評価してよいなら
う。

宇都宮 政治家としての反省に
おけるが、日本の場合、政府に先
を越す目まゝあれば数年前に「
とくに中ソ対立の激化がいわれ出
した」一賞相が訪中することゝ
できた。ニクソン訪中より先に

た方がよいのだろうか。

神谷 四種といっても、日本が
いちばん大部分が多いというのが
わたしの持論。日本には米中
ソを相手に回してインシアチブを
發揮するだけの力はない。大國の
ゲームのプレーヤーになってはい
けない。したがって日中關係にお
いても、日本が働きかけるよりも
むしろ中國の行動にかかわる部分
が多いだろう。國交正常化も中國
の方が急がなければ、日本としては
どうしようもない。現実には中國
は今後、米中會議の成果をラン
ステップとして、日米の離間をは
かるとに重点をおいてやるであ
らないか。この場合、「米國に先
を越される」といふことで、國論
が沸騰し、かえって大同を議するこ
とをおそれるのだが…。

中嶋 平均的日本人が今度のニ
クソン訪中をどう考えているか
を、いろいろ聞いてみたのだが
「手放して喜んではおられない」
という疎外感、不安感が強いよう
だ。そして、日本は米國とも中國
とも違つたという認識が出てき
たのがおもしろい。

日本と中國とはちがふと。アジ
アの異母兄弟。といつていい仲
だ。同盟關係をどうにかける重
事の存在、という観点からだけ判
断しているのではない、むしろ兩國
の接觸の歴史をたどると、

教しているが、短期間にはまだまづ
まづプリシシムがそのものとい
ている。

神谷 そねば、わたしの、二石
阿彌は、まゝ行かないといひ考
えと同じだ。宇都宮さんのおし
やまよに、ベトナム問題で米中

米中關係では台灣問題は、割次の
な、ムシ喰みたなもので、痛く
ないようにして扱つかが問題なんだ
けだ。

相狹　しかし、ソ連のフリクシ
ミンが大きいなこのことは問題
だ。

の長期計画(遠慮)にとて、何かなければならぬ。立つ立場から考えなければならぬ。

その点で「中國を日本の立場を考へてこれなれば困難」といふ立場に立て、思つてきでない日本の目外交を確立すべきであらう。最近の北支トナムとの接衝やモンゴルとの國交樹立、日ソ關係

中邦通のターゲット攻撃目標に
なりつつある。それに米中緊張
緩和とすつてお、その緊張が他の
アジアへ、たゞは朝鮮半島に
転移、されるというところあり
る。日本としては米中会談の成
功で今後を楽観するわけにはい
かぬ。

中国も
大
神谷氏
戦争の

といふ點で、日本は米國と中國とを導つたといふ證據が出てきたのがおもな反處だ。

日本と中國とはもとと、アジアの異母兄弟、といつていい仲だ。兩國關係をアジアにおける軍事的存在、といつて觀點からだけ判斷してはいけないし、むしろ兩國の發展は互に密着してゐる。

神谷 米國としては、肩背相の代表する獨逸路線を応援して、これと今後四つに相んでゆきたいといふのが希望するところだつ。その意味では成功だ。たが日本にとっては事態はむしろさしくなる。米國は日本の経済力を、中國は日本の軍國主義を、それぞれ警戒し

日本の
国ゲー
の跡始

はないか。この場合、「米國に先を越される」といふことで、國論が沸騰し、かゝつて大局を誤るゝことをおそれるものがある。

統制選挙での再選。周恩来首相に
としては、文革五年後の今日、林
彪失脚という事実にもついて周
恩来体制の確立をうたいあげた
目的があった。その品評者とも二
ツツン訪中といふときびきとを狂大
なドラムに仕立てあげてついでに
つて、十分成果をあげたことがで

立場を
ムをす
末必要

けない。したがって日中關係において、日本が働きかけをよりむしう中国の行動にかかわる部分が多いなつ。国交正常化も中国の方が急がなければ、日本としてはどうしようもない。現実には中国は今後、米中会談の成果をウイン・ステッとして、日本の離間をはかるべき理由を認めていくので

——最後に一言、この日の米中会議は、米中双方にとって成功だったといえるか

中嶋 米中双方とも「何」の会議は、短期的な意味で何とか成功させたという目的をもっている。マニラ大演説は「何」の目的

中嶋氏

なるな

宇都宮氏

なづか。日中接近をその積極化すべきか。あるいは当分機嫌をなみながらよいのなづか。

神谷 四極といつても、日本がいはば欠陥部分が多いというのがわたしの持論だ。日本には米中ソを相手にしてイニシアチブを發揮するほどの力はない。大國のゲームのプレイヤーになつてはい

な相違がある。太平洋戦争では米国は中国の同盟国だったが、日本は中国の敵国だった。その意味で日中関係は戦争のあと始末が必要であり、平和条約というハードルを越えて行かなければならない。経済問題にしても、まず国家間の関係を正したうえでなければ大々的な進展はありえない。この点で二

陸軍に帰を移してつめる、と
 とな。
 先のソ連の敗戦で北にトナム
 となつて、ソ連と二層結び
 となつて考えられる。ベトナム
 解決は、米中ソ、それに北
 とな、解放戦線とも方向は一
 が合意した風にはが、
 むすかした。ソ連は中南
 を見て、すでにフリクシ
 としている。
 宇都宮、ソ連は中国を
 るし、大使もお互にに置
 る。仲良くて言はないはが

現憲法は
 国会職
 能を起
 して、
 憲法が
 ない。
 いてい
 ない。
 要しない。
 必要ない。
 要しない。
 中略 たしかに、実際の中ソ関
 係はそれほど甘くない。
 宇都宮 それはどうだ。だが、
 必要ないに要々なを判断する必
 要はない。
 — アシアにおける四極構造と
 いうことが、そのなかで日本は
 今持ていう立場をとつたらしい

で来た。ニクソン訪中より先にね。台湾問題にしても、ちとちと米国のタレス國務長官の強制によるものだ。米国のシッポにみろさがつて行くなば、かんじんな時に先生を越して足踏みか、間を転換するところができた。た。

日中關係と米中關係には本質的